

【建設通信新聞 令和2年9月30日】

# 地域建設業が 埋却作業に奔走

## 豚コレラ発生受け群馬建協

群馬県高崎市内の養豚場で家畜伝染病「CSF（豚コレラ）」が発生したことを受け、地域建設業も防疫措置の重要な担い手として、昼夜兼行で対策に当たっている。

感染が確認された26日の午後8時、県当局から群馬県建設業協会（青柳剛会長）に協力依頼があり、翌27日早朝から「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する細目協定」に基づき、埋却場所の掘削作業を開始した。

県の家畜防疫員の立ち会いの下、協会高崎支部（関口功支部長）で当該地区を担当する廣友土建、関東土建、研屋、千代田組、追川工業の社員らが対応に奔走。28日からは掘削した土中に殺処分した豚を埋める埋却作業も始まった。

豚コレラが発生した養豚場で飼育していた約5,400頭すべてを殺処分する。県の発表によると、26日午後9時現在で2,371頭、44%の殺処分を終えた。

埋却作業は主に子豚から進めたが、足もとでは大きく重い成豚に移ってきたため、運搬作業などが難しくなってきたという。埋却作業だけでなく、運搬用車両の手配などにも地域建設業が協力をしている。

群馬建協の青柳会長は「直接、掘削や埋却作業に従事している支部の方々には、本当にご苦労さまと言いたい。心理的なストレスが心配だが、何とか『地域を守る建設業』の役割を果たしていただきたい」と激励。加えて「自然災害に新型コロナウイルス、そして今回の豚コレラという『トリプル災害』に、協会としてもしっかりと備えていきたい」としている。

【建設工業新聞 令和2年9月30日】

# 豚熱感染約5400頭の埋却作業 群馬建協高崎支部が対応

群馬県高崎市の養豚場で家畜伝染病の「豚熱（CSF）」に感染した豚が見つかった問題で、約5400頭の殺処分に伴う埋却作業を群馬県建設業協会（群馬建協、青柳剛会長）が行っている。高崎支部の会員企業が埋却のための掘削作業を27日から夜通しで実施。県の職員や自衛隊員らが処分した豚を建設資材にも使



養豚場に向かう県の職員ら  
27日（群馬県提供）

## 夜通しで掘削

われる大型バッグに入れ、掘った穴に搬送する作業などを続けている。

県と群馬建協は防疫協定を結んでおり、特定家畜の伝染病に関する処分の細目協定を踏まえ、県が作業への協力を高崎支部に要請した。CSFが国内の養豚場で発生したのは約半年ぶり。群馬県の養豚場では初めて。群馬建協が5000頭以上もの埋却処分に対応したのも初めてという。ダンプトラックやオペレータを手配し、当初の計画を上回る規模の穴を掘った。親豚の搬送が難しく、首脳陣は「非常に過酷で大変な作業になっている」と現場従事者の苦労を代弁した。

養豚に異常があることを農場が県に通報し、25日に家畜衛生研究所で行った検査でCSFの感染が確認された。農林水産省が26日に発表した。県は豚熱の特定家畜伝染病防疫指針に基づき、殺処分、焼埋却などの防疫措置を行うことになっている。